施設問題

問 ランニングコースの活用は
答 スポーツ観光推進会議を設立し対応

田中 榮一 議員

【ランニングコース整備について】

問 **グリーンスポーツを基点として、４㎞コースが整備され誘客につながるコースとして期待されるが。**

村長 観光農政課に「スポーツ観光推進会議」を設立し、市民ランナーや、学生実業団の陸上合宿誘致を目指します。「きこりの道の再整備」にも着手しており、飯田地区では、「東山の散策路整備」を行う計画と聞いています。行政と地域がこうした整備を行いながら、ウォーキングやマウンテンバイクなどの幅広い層の誘客に努めます。

問 **村民の生涯スポーツの場としての活用は。**

教育長 地域総合型スポーツクラブへの支援の活用と、ランニングは気軽にできるスポーツなので、日ごろ運動不足の方々に健康、体力づくりに活用していただくようＰＲしていきます。

【地域防災計画について】

問 **東日本大震災の教訓として、防災訓練の重要性が取り上げられているが、実施している訓練の実態は。**

村長 大規模な地震の発生を想定した地震総合防災訓練、建物火災を想定した消防総合訓練、土砂災害を想定した防災訓練を実施しています。大規模災害が発生した場合、住民一人一人の応急対処に関する知識や体験が被害の軽減に最も貢献するものと考え、住民相互が行う応急対処を主眼に、初期消火や救命、救護に関する訓練を実施しています。

問 **白馬村に大雨警報が発令された場合の対応は。**

総務課長 職員の災害時初動マニュアルに沿って、総務課、建設課、観光農政課を中心に、建設事務所、地方事務所と連絡を取り合いながら対応しています。

問 **村長が考える災害に強い村とは。**

村長 河川の氾濫などに備えたハードな設備と同様に、住民が自らの判断で避難することが何よりも大事です。災害時に人が亡くならない村が、災害に強い村と考えます。そのためには意識改革、情報発信による村民理解、自立の精神など、お互いに認識しあうことが災害に強い村づくりに繋がると考えます。

【社会福祉について】

問 **高齢者福祉相談業務は大切な仕事だが、その相談内容は。**

村長 ３名の専門職を配置し、通常業務日のほか、休日及び夜間にも電話対応しながら、主に地域包括支援センターで業務を行っています。相談業務の平成22年度実績数値は、延べ２３０４件、新規相談人数が95人となっています。

下河原橋から見たランニングコース（７月22日）